

令和6年度「知事と市町長の円卓対話」（伊賀市）概要

- 1 対話市町名 伊賀市（伊賀市長 ^{おかもと} 岡本 ^{さかえ} 栄）
- 2 対話日時 令和6年7月3日（水）13時20分～14時20分
- 3 対話場所 三重県伊賀庁舎7階 大会議室（伊賀市四十九町 2802）
- 4 対話項目
（1）これからのまちづくり

5 対話概要

対話項目 これからのまちづくり

（市長）

1月1日の能登半島地震について、三重県は中部9県の防災会議の幹事県だったということもあり、つぶさに現状も把握されて、色々対応していただいていると思います。防災・災害というところから率直に今回の震災に対してどのように思われたかということをお伺いしたいです。

（知事）

能登半島地震に対して感じたことをお話しさせていただきたいと思います。

私が知事になってから、災害対応に力を入れて改善をいろいろとさせていただきました。例えばマンホールトイレを設置したり、発災後すぐに集まって作業ができる、常設の部屋がなかったので、オペレーションルームを設置したりしました。今回の能登半島地震を見てみると、トイレが使えなくなっているし、すぐに作業をする部屋が必要になっていたのも、これは作ってよかったと思いました。

ただ、南海トラフ地震がやがてきた時、伊賀はそれほど大きな被害はないと思いますが、津や三重県の南側、海に面している北側も大きな被害に遭うだろうと思います。これらへの対応は十分備えられているとはいえないということが今回わかりました。

能登への救助という意味では、輪島市長が先月三重県に来られて感謝を伝えていただきました。これは、三重県だけが頑張ったということではなくて、伊賀市をはじめとした自治体の皆さんが普段の仕事に加えて、能登に行っていて、活躍をしていただいたおかげでございます。初動のときに伊賀市の職員の方に行っていただいたことに、心から感謝をしています。

今回の地震については、6月17日に、Webで全県の29の市町（1市欠席）で話し合いをさせていただきました。そこで、反省点をまとめて、南海トラフへの対応を作らせていただいたところです。特にその中で申し上げておかなければ

ばならないことは孤立集落についてです。

伊賀市でも発生する可能性があります。大事なことは、情報収集になります。伊賀市では、すでに情報連絡ができる電話以外の方策、設備を整えていただいています。また、電源についても考えていただいて、対応していただいていると聞いています。

2つ目は、火災への対応です。能登半島で起きた火災は消防車が入っていけました。ところが、消火栓の水道の管が地中でずたずたになって、水が出ませんでした。そのようなとき、普通は川にポンプを落として水を吸い上げるのですが、能登半島では川が2 mから4 mくらい隆起してしまっていて、水も吸い上げられないから水がかげられない。このような問題がありました。そこで、先月の頭に、防衛省に行きまして防衛大臣に空中消火の話をしてきました。このような話は、国にも提言していきたいと思っていますし、各自治体の市長さん、町長さんともこれから話をして、進めていきたいと思っています。

もう一つ大事なことは耐震補強です。能登半島でも多くの家が潰れました。輪島でも全壊が40%、半壊も同じぐらいだと聞いています。三重県では6月補正で、耐震補強の予算を県議会でもお認めいただきまして、6月28日に制度を作らせていただきました。自治体、それから、各市町とのタイアップしたような制度をお考えいただけるとありがたいです。

(市長)

私も当日の情報のなかで一番印象的だったのは、輪島の朝市の火災でした。

伊賀地域(旧市街内)は、江戸時代から続いている木造住宅が連立していますし、高層地域のため水もございません。伊賀上野城の外堀は昭和40年代初めまでは残ってしまっていて、それを今駐車場にして残っているところがあるので、少し復活して、大火災に備えられるような防火のための施設にしようと思っています。町のために良いですし、観光にも使えます。

また、今、忍者体験施設を造ってしまっていて、来年の4月頃に完成予定です。一部分は親水公園のようにして、水蜘蛛の競争でもできるようにすれば、面白いと思っています。ただ、直球勝負するとメニューがなく、防火のための施設を整備しようと思うと、地下でなければいけないとか、開渠でなければいけないとかあるので、メニューを探しているところです。それと同時に命を守ることがまず第1ですから、耐震ということが大事になってきます。

家の中にシェルターを作るという話は、市も一緒になって来年の4月ぐらいから、取り組みたいと思っています。今、耐震診断とかは無料でできますので、耐震設計と耐震改築の費用がどれくらいサポートできるかということが問題になってくるかと思っています。

また、災害が起きると、通信回線の確保が一番大事になります。衛星電話は高いですが、そういうものがあると、状況把握ができ、災害対応ができるようになります。伊賀は震度レベルが1段階低いということで、支援する場所にもなれるので、災害についてはそういうところをしっかりとしていこうと思っています。

地域で課題となっているのは少子高齢化です。県は子ども施策について力を入れていくそうですが、具体的にどういったところに力を入れていきますか。

(知事)

少子高齢化だけでなく、人口減少への対応というのは、去年あたりから、全国的に言われるようになりました。この間も合計特殊出生率が発表されて、日本全体の数字が下がり、また、東京に至っては0.99となり、なんとかしないといけないという話です。東京はブラックホール自治体と言われていまして、地方から人口を吸収するけれども、子どもは生まれないので、東京に行ってしまうと結果的に日本全体の人口が減ってしまうということで、ブラックホール自治体と言われている。

三重県では、私が知事になった3年程前から人口減少は大きな問題になると言っていました、一昨年4月に、人口減少対策課を全国で初めて設置し、議論してきました。去年の8月に、人口減少対策方針をまとめまして、自然減の対策・社会減の対策に係る5つの柱を作りました。具体的には、子育て・子ども施策の充実について、そして、ジェンダーギャップという話を聞かれたことがあると思いますが、男性と女性との間に差があると女性はそこには留まらないという話であります。女性が流出していくと、子どもが生まれる数も減ってしまうという問題もあります。そういったことをやっていくために柱立てをして、方針をまとめました。

各自治体がやっておられる子育て施策を応援させていただこうということで、令和5年の予算から、伊賀市がやっている先進的な取組を、2分の1補助させていただいて、新しいものに取り組みやすい形を作っています。

伊賀市は子育て施策に力を入れているとお聞きしていますが、どういったところに力を入れているのか教えていただけないでしょうか。

(市長)

伊賀市は自然が豊かで、名阪国道もあるため交通アクセスも意外と良く、歴史の積み重ねが豊かであるということで、他にないものがある、こんなに良いところはないと思っています。ただ、足りないものもあって、なぜ若い人たちが出て行ってしまうかというと、地域でのアメニティが少ないことや、知事にも一肌脱いでいただきたいが、教育の改革です。

小・中学校については、我々の教育委員会が管轄していますが、高校は県で管轄しています。いかに、地元でレベルの高い教育を受けられるかが大事で、それがないと、よそから伊賀に来ていただける人が安心して子育てができないということになる。

上野高校でも、高校改革と言っていますが、我々、小中教育を担当する自治体と一体化してやっていかないといけません。例えば上野高校は、生徒が大分減ってスペース的にも空いてきたので、そこに、中学校を併設して、地元だけではなく、周辺地域からも来てもらえる様にしたいと考えています。このように、安心して子どもを教育できる地域にならなければと思います。

また、保育園・幼稚園から中学校卒業までのサポートにも力を入れています。

具体的な取組としては、小・中学校ともに給食費を昨年から無償にしました。また、今年からは、保育園、幼稚園の副食費を無償化しました。さらに、育休退園をなくし、今年度からはおむつの持ち帰りもなくなりました。

保育園・幼稚園から中学校卒業まで70万円くらい補助をすることになりますが、市民の負担を少なくして、子どもを産みやすい環境にしていきたいと考えています。

今サポート70と言っていますが、今年度、来年度とバージョンアップをしてサポート100ぐらいにしようと思っています。小・中学校の隠れ教育費を少しでもサポートできるようなことをしたいと考えています。そうすることにより、少子化のカーブを、なるべく緩やかにしていきたいなと考えています。

(知事)

伊賀市には、すごく先進的な取組をしていただいています。県においても、先程市長がおっしゃったおむつを園で処分する取組の支援をしております。新しいアイデアがありましたら、教えていただきたいです。

前回の円卓でもお聞きしましたが、若い方が戻ってきて伊賀市で仕事をする、あるいは、仕事は伊賀市以外の関西へ行くけれども、家は伊賀市という形で、社会減対策も頑張っているという感じもしました。

そういった社会減対策のみならず、広域的な対応について、教えていただけないでしょうか。

(市長)

伊賀地域においては、定住自立圏を実現しています。

京都の南山城村、笠置町、奈良の山添村に加えて、今年度は名張市にも入っていただきます。こちらのコンセプトは、水と歴史で繋がるということです。そのような意味では大変自然なまとまりかなと思います。

三重県には伊勢の国、志摩の国、東紀州と伊賀の4つあります。県には昔、クローバープランというのがありまして、4つの地域の特性を上手に生かして1本の茎になっているというプランでした。そういう在り方が県全体の力を発揮していくことになると思っています。

三重県は、名古屋圏と関西圏との繋がりが深いので、両方にしっかりと、目配り、気配りをして、しっかりとしたスキームを作っていないといけないと思います。

これについては2025 関西万博やインバウンドの話もありますが、三重県は、関西連合については、オブザーバー参加だと思いますが、正式に参加した方が、意見しやすいのではないかと思います。

三重県は、伊勢・志摩もあれば、伊賀もあります。また、紀州・熊野もあり、良い素材がたくさんあります。ただ、周りを見れば名古屋、奈良、京都、大阪とインバウンドでいっぱいオーバーツーリズムと言われていますが、三重県は寂しい状況です。

その点についてはいかがですか。

(知事)

桑名市・四日市市・鈴鹿市あたりは名古屋との関係で発展すればいいですし、伊賀地域は関西の関係で発展していけばいいと思います。それがおっしゃっていたクローバーで1つの三重県というところであると思います。

観光は、すごく大事で、東京や名古屋は外国人がとても多いです。日本の人口がどんどん減っていくので、観光客も日本人に頼っているのは、これから経済的に立ち行かなくなります。

インバウンドについては、令和6年の4月と、コロナ前の令和元年の4月のインバウンドの回復率を見ても、三重県は79.4%ぐらいです。結構回復しているように見えますが、日本全体が100%を超えていて、岐阜県も愛知県も100%を超えています。経済的には、インバウンドを誘致していかないとこれからはまずい話です。

その点、伊賀には大きなキラーコンテンツ「忍者」があります。来年4月を楽しみにしています。

(市長)

外国の方は本当に忍者が好きですが、その忍者が、伊賀と重なっていません。インバウンドで来た人たちは忍者が好きで、東京の忍者ショーを見たり、あるいは登別のショーを見に行ったりします。忍者＝聖地の伊賀を訪れなければならないという重ね合わせができていない。そこができるとう伊賀が三重県の吸引力

となって、そしてまた広がっていくことができるので、これからは、忍者＝伊賀という重ね合わせをしっかりとした広報政策を三重県と一緒にやらなければならないと考えています。

(知事)

その通りだと思います。

外国の方は、忍者、忍者と言いますが、これからは、伊賀忍者と言った方がいいのかなという気がします。

忍者の聖地、発祥は何かということですが、藤原千方が四鬼を従えたのが発祥と言われています。このように忍者の歴史みたいなものを、忍者は歴史の1ページなのですが、その中でも歴史があるということで打ち出していくことも大事だと思います。

多くの観光客に来てもらうというときには、交通機関も大事になってきます。私が小さいときは、模擬試験を受けに行くときは関西本線に乗って、奈良まで行って、試験受けてきたみたいなこともありましたが、残念ながら、今では大分乗客が減っています。

(市長)

関西本線は、昔は国鉄だったため一本運行していました。しかし、国鉄の民営化のため亀山で分割され、中途半端な利用になってしまいました。

伊賀から名古屋、東京へ行くときの交通ルートとしては、直通バスや近鉄の南回りがあります。それらを合わせると、例えばバスは年間1万人、近鉄の南回りが2万人、合わせて3万人、往復6万人になります。一本運行をしていたら、JRを使ってもらえる人達をみすみす見逃しているわけです。

我々も伊賀から名古屋に行って東京に出るときに、何が一番便利かという、昔、急行かすが号というのがありまして、伊賀上野から乗ると、降りたら新幹線の改札口がすぐの13番線に着きました。

バスで行くと名鉄バスセンター4階に着いて、駅まで行かないといけなくて、近鉄でも、一番端から行かないといけなくて、手間と時間と経費を考えたら、JRの一本運行が一番だと思います。

(知事)

関西本線は、直通運転を行っていた時期は利用客が多かったのですが、JRの分割後は減少していきました。

今回、県庁・市役所の人にも頑張ってもらって、直通運転ができることになりました。ただ、課題も多くあり、会社が変わると、JR西は福知山線の事故があ

りまして、二度と事故を起こさないために、ブレーキシステムが通常の在来線よりも強化されました。そうすると、JR東海とJR西のブレーキシステムは違うので、国鉄時代は一本で行けたが、なかなか直通というのは難しい。

直通運転がすべてではないとは思いますが、関西本線を利用してもらわないといけない、というのは事実です。

その点で伊賀市は二次交通も考えていただいている。鉄道を使いましょうとよく言いますが、マイカーも利用される人が多いので、鉄道だけを使っている人はなかなかいません。駅で降りた後、電車に乗る前をどうするかが大事です。

伊賀市は随分対策されていますよね。

(市長)

二次交通の整備として、新堂駅からのバスの実証運行を行っています。また、交通弱者と言われるお年寄りや通勤通学生が使えるような、小回りの利く従前とは違うライドシェアを考えています。

バスは大量輸送に特化するので、そういう意味では、交通は鉄道とどのようにやっていくかが大事です。

(知事)

二次交通は非常に大事で日本もようやく、4月から日本版ライドシェアをやり始めました。私も知事会で、その件に関しては、色々な発言をさせていただきました。知事会をまとめるような動きをさせていただきました。

駅から、あるいは駅にどのようにアクセスをするか、路線バス、タクシーもありますが、タクシーはなかなか乗りませんよね。

ライドシェアという形で、タクシー会社が全体をコントロールしながら、安全や安心の部分は、タクシー会社の責任を持って、今までのような2種免許はなしに、通常の免許で運転できるようなことが実現し始めています。

今月から、三重県の志摩で、一大観光地のため多くの人に来られるのですが、タクシーがないということで、実証実験をします。

(市長)

私もライドシェアについては、大事だと思っているので、交通戦略課によく考えるよう指示しています。来年度ぐらいから少し形にしていけるかなと思っています。ぜひ、ご指導いただきたいです。

また、私たちが子どもの頃は、伊賀鉄道の伊賀上野駅のなかに引込線があり、それを渡ると、茅町のガス会社や窯業会社へ行ったり来たりできました。これは今でも存在するので、JRに、ちょっと乗り入れてもらって、大阪から怪しい忍

者列車なんかを走らせることも面白いかなと思います。

(知事)

色々なことが考えられますが、鉄道の場合は、設備施設を変えるとかなり膨大な投資がかかるので、そこを見ながらとなります。

あとは駅舎の移設とかを考えながらになると思います。

先ほどのお話の中で、広域連携の話がありました。ちょうど2年前にもお話を伺っておりますが、その後2年間で、進んでおられるところはありますか。

(市長)

ごみの処理を府県を跨いでやろうということになっています。三重県と京都府のご理解をいただいて、定住自立圏で新たなゴミ処理施設を造る話が進み始めています。これが大きな成果の一つです。

なお、伊賀地域について、一番、解決しないといけないことは、防災、あるいは災害時において、必ず問題になるマスメディアの情報発信・受信です。定住自立圏の中で伊賀市は中心市ですが、伊賀市の情報が、京都府、奈良県に伝わりません。伊賀市には、京都府、奈良県の情報が入ってきます。伊賀市は、三重県に属する東海エリアになるので天気予報やテレビ・ラジオ等のエリア分けが名古屋圏となり、一体的な情報発信・受信ができません。このような状況は、大規模災害発生時においては、復興するまでの大きな障害となるので、定住自立圏でそういうことがないようにしていきたいと思っています。

また、地方整備局の管轄について、橋や掘削については、大阪にある近畿地方整備局ですが、取り付け道路については、中部地方整備局のため名古屋に行かないといけないので、復興するときは大変な苦労になると思っています。

同じようなところの長野県は北陸地方整備局と中部地方整備局と関東地方整備局の3つあります。ただ、伊賀市のように重層的な分け方ではなく、面で分けています。

国にもお話をしないといけません、定住自立圏のところは、例えば上下ともに近畿地整で面で管轄してもらいたいと思っています。

後はお知恵を拝借したいのが、伊賀ナンバーを作りたいと思っています。合併しなければできましたが、合併してしまったため、要件を緩和してもらわないと作成が難しくなりました。

一つのアイデンティティを作ることは大事だと思っています、名張市が定住自立圏に入ってくるので、合わせて伊賀ナンバーを作れば、一体感が生まれると思いますが、名張市が入らないと言えませんが。

(知事)

割と全国で同じ問題、課題があります。

やがて国で基準を見直してもらおうとできるようになると思うのですが、ベースになる車両数は必要です。ただ、市長がおっしゃるように、アイデンティティは非常に重要ですから、それを作っていくのは大事なことです。

先ほど、定住自立圏のお話の中で、災害の話がありましたので、少しでも申し上げますと、地籍調査について、三重県はすごく遅れています。

伊賀市は三重県のなかでは進んでいます、全国では遅れています。これから、力を入れていきたいと考えています。

先ほどのシェルターと同じですが、基本はシェルターも、地籍調査も、自治体の皆さんにお願いをしていかなければいけません。災害復旧には必ず必要ですのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

(市長)

課題はいろいろありますが、伊賀も紀州も志摩も伊勢も良いところ、2025大阪関西万博に向けて良い機会ですので、我々もやらなければいけないことがあります、インバウンドを増やして、儲かる地域にして、それをしっかりと福祉や医療に向けられるようにしたいと思ひています。

ぜひまたよろしくお願ひいたします。

(知事)

令和7年度に向けて色々なことを考えていかないとはいけませんし、おっしゃるように、地域それぞれで、どう発展をしていくか。また、全域でも考えなければならぬです。

観光は、決して伊賀だけで閉じるわけではないと思ひています。この間もF1で来た外国人の方を、伊賀の方に連れて来てもらうということも考えましたし、伊勢志摩の方におられる方にも足を伸ばしていただいて、伊賀まで来ていただくということもできない話ではないです。

加えて、国際観光の戻りを考えますと、まずは羽田や成田で、その次は関空、伊丹になり、それから中部になります。三重県はかつて関西空港との関係が密でしたが、今は中部との関係となってしまっています。コロナ後の回復を考えたときに今後は関空を見ていく必要があると思ひています。

伊賀市は関西空港から近いので、伊賀市に多くの観光客に来てもらうことが、これからの賑わいには必要です。伊賀市に来てもらえるようなルートを広域関係で作っていくことも重要かと思ひます。

観光を中心に賑わいを創出するということが大事で、そのときに公の力だけ

では難しいため、民間にも入ってもらうことも考えていただくと良いかと思
います。

(市長)

民と公で、競い合うのではなく、一緒に作っていくことが大事です。これは県と
各基礎自治体も同じです。

(知事)

おっしゃるとおりです。一緒になって三重県の発展をよろしくお願いします。